



# 「人々の街にまつわる記憶」 EWS in Berlin

## 塩田千春特任教授 2024 年度 EWS 集中ワークショップ

2024 年度のエクスペリメンタル・ワークショップ（EWS）では、塩田千春教授の集中ワークショップを特別に開催致しました。

期間：2024 年 7 月 26 日（金）～8 月 7 日（水）

場所：ベルリン K51 アトリエ塩田

テーマ：人々の街にまつわる記憶

今年度のエクスペリメンタル・ワークショップ（EWS）の、塩田千春教授の集中ワークショップは、塩田教授の活動の本拠地である、ベルリンで開催しました。ベルリンという日本から離れた場で開催することで、学生たちは異文化を体験できるだけでなく、10 日間のワークショップに没頭できるようにすることを目指しました。塩田教授からの集中的、個人的な指導に加えて、ベルリンの日常、歴史そして普段と異なる場における制作や思考が、参加学生に新たな視点と強烈な体験を与えることを期待しました。

29 名の大学院生が参加を希望しましたが、事前の課題提出や面接などを通じて、採取的には多摩美術大学大学院生 9 名、博士 1 名が参加することになりました。

ベルリンの壁が崩壊してから 35 年になる今年度のテーマは、「人々の街にまつわる記憶」です。ベルリンはかつてイデオロギーによって分断された街です。今でも街のあちこちに、その痕跡、記憶が残されています。その記憶、痕跡に生身で触れることは、参加メンバーの創作にも、強い刺激を与えてくれました。

### 集中ワークショップ参加者

#### 博士前期課程 1 年生

鄒 娜（油画）

小島平莉（テキスタイル）

亀井里咲（情報デザイン）

朱煦（情報デザイン）

#### 博士後期課程 2 年生

李燦辰（美術 油画）

#### 教員

塩田千春特任教授

久保田晃弘 教授

ムーニー・スザンヌ 准教授

#### 博士前期課程 2 年生

ヨウ ビキ（彫刻学科）

ゴレイカン（情報デザイン）

古山 寧々（情報デザイン）

イン イン（グラフィックデザイン学科）

園田こ春（テキスタイル）

講師 増田麻耶氏（2021 年多摩美卒業生）

講師 Tereza de Arruda(キュレーター)



## 日程・対象活動

### プロジェクトについての感想

今回のプロジェクトに参加した大学院生たちは、とても貴重でユニークな経験をしました。海外で新しい作品を体験し、制作を行うだけでなく、普段は行くことができない場所や人々と出会うことができました。

学生たちはベルリンの複雑で困難な歴史を知るとともに、ベルリンの人々、ドイツの歴史、そして街の風景がどのように深く絡み合っているかについて直接的な洞察を得ることができました。海外で過ごした短い時間だけでも、学生たちの思索や思考の発展は明らかです。私たちはこの経験と新しい見方を、学生たちが今後の制作にどのように取り入れていくのかを、とても楽しみにしています。

### EWS ワークショップルームでの事前ミーティング



出発する前に、事前ミーティングで日程、荷物、必要な資料についての打ち合わせをしました。

7/26～7/27

日本出国 ドイツ ベルリン到着



2024年7月28日（日）

今回のワークショップ課題の出発点として、マウアーパーク蚤の市でさまざまな「モノ」を探しました。売られているものから、ベルリンの日常的な文化、記憶、歴史などを強く感じました。

午後には、K51 アトリエ（塩田教授のアトリエ）を見学し、学生の個人面談が始まりました。



2024年7月29日（月）

Sammlung Hoffmann コレクションのプライベートツアーを行いました。先端的なコンテンポラリーアートを見ることができました。ガイドさんの詳しい説明を受けながら、貴重な作品コレクションを見学しました。作品を大切にしている理由など聞き、作品への理解が深まりました。

午後には、ベルリン歴史の徒歩ツアーに参加して、街と歴史、西・東と壁が作られた時代の流れを詳しく学びました。

その後に、K51 アトリエで学生個人面談の続きが行われました。





### 2024年7月30日（火）

朝早く、Boesner という大きな画材屋さんで制作のための材料を探したり買いに行きました。

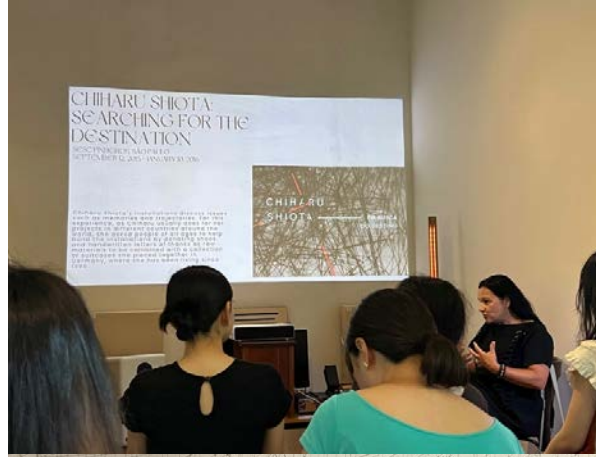
次に、Floating University という不思議な湖にあるアートスペースで、多摩美OB 増田麻耶によるレクチャーを行いました。レクチャーの後、アーティスト活動や、政治的なテーマを作品に入れることなどについてのディスカッションが行われました。

夕方、K51 アトリエで学生個人面談の続きを行いました。



### 2024年7月31日（水）

Kopenhagener Str のアトリエで、Tereza de Arruda(キュレーター)のレクチャーを行いました。ブラジル大使館で開催されていた展覧会や Tchoban foundation で Lina Bo Bardi の展覧会を見ました。



2024年8月1日(木)～2日(金)

Hamburger Bahnhof と Neue Nationalgalerie 新国立美術館で、ドイツ国内外の幅広い歴史的、最先端の芸術作品を鑑賞し、ベルリンの美術館キュレーションの力強さを実感しました。

夕方、ジェームズ・タレル (Luther's Light: light art presentation) のライト・インスタレーションを体験できました。





2024年8月3日（土）

午前中はベルリン・ユダヤ博物館の印象的な建築を体験し、Berlinische Galerie で現代アートの展示を見ました。

そして午後は、制作に集中しました。



2024年8月4日（日）

K51 アトリエで、翌日の発表の準備を行いました。一人一人、作品の発表の方法を考え、互いに協力したり、インタビューし合うことで、制作や発表方法を探求しました。



2024年8月5日（月）

8月5日、1日かけてじっくりと講評会を行いました。学生のプレゼンテーションの後に、教員や各学生からたくさんの質問やコメントをもらいました。学生同士の重要な交流でもあり、お互いの作品を批評する能力を養う機会にもなりました。





発表を通じて学生たちは、都市における人間の関係性についてさらに考え、都市環境における生活のありように繋がるアイデアがいくつも出てきました。このやり取りから、アートの思考を通じて、想像力豊かで真に独創的なアイデアが生まれ得る、という確信が得られました。





## 帰国



## 学生の声

「ベルリンの街を10日間みっちり満喫しました。街の様子に表れている断片的な歴史の痕跡を巡ることができて、大変充実していました。普段から地図や関係性、記憶について考えていたので、初めて過ごすベルリンの街での10日間は、日本での日常で見落としている小さな要素を見つめる機械になりました。例えば、ベルリンの壁が通っていた道を地図上で探りながら、実際に自分の体で東と西の違いを観察しました。そして、道中であつた二者が交わる抱き合う像や、デモ、道端のビンの破片などは関係性を強く意識させられた出会いでした。たくさんの美術館、博物館をまわれたことも、研究はじめてたで硬くなった頭をほぐしてくれる時間になりました。小さな枠組みで物事を考えていたことを何度も痛感させられて、とにかく作ろう、作りたいという意欲に繋がっていきました。塩田さんとの面談でいただきたいいくつかのアドバイスは、メモをとらなくても思い出せるくらい印象的で、なぜ自分が作品を作っているのか/なぜ自分でないこの作品をつくれぬのかを自問自答するきっかけとなりました。短い時間ではありましたが、面談で塩田さんが作品制作にむける眼差しが少しだけ伝わった気がして、私はいままで作品をどれだけ正直につくっていたのかなとホテルで考えていました。ムーニー先生、久保田先生、また参加メンバーのみんなとの雑談もどれも眩



しい思い出です。帰国後に、後期授業で一緒になった EWS メンバーと挨拶して夏休みどう過ごしたか話した時に、このワークショップに参加して本当に良かったなどと改めて思いました。貴重な体験を、ありがとうございました。」

「塩田先生のワークショップに参加するために、今回ドイツのベルリンに行きました。初めて訪れる場所だったので、とても新鮮な体験でした。現地では、たくさんの展覧会を見学する機会があり、特に印象的だったのは、様々なアート作品やその展示方法についての独自の視点を学べたことです。また、策展人（キュレーター）とも直接お会いし、お話を伺うことができました。彼女は企画に対する深い洞察と独創的なアイデアに感銘を受け、アートの見方がさらに広がったと感じています。このワークショップを通じて、塩田先生の指導のもとで多くの新しい知識や視点を獲得ことができ、大変有意義な時間を過ごしました。今後の創作活動に大いに役立てていきたいと思えます。」

「この度、塩田先生のワークショップに参加し、忘れられない素晴らしい経験をさせていただきました。塩田先生の仕事を訪ねることで、普段触れることのない独自の芸術空間に身を置き、そこでの深いインスピレーションを受けました。さらに、ベルリンという異国の地での旅を通じて、街の歴史や文化、芸術的なエネルギーに触れたことも、私の創作に大きな影響を与えました。毎朝、ムーニー先生や久保田先生と共に朝食をとりながら、前日の体験や感想を気軽に話し合う時間も、なかなか面白い経験でした。リラックスした雰囲気の中で、自然と新しい視点が生まれたりするのがとても楽しかったです。ヨーロッパのアーティスト同士のこうした交流は、互いに新たな視点やアイデアを引き出す貴重な機会であり、創作の中で非常に重要な役割を果たします。特に、塩田先生から『今回のテーマに囚われず、自由に表現していい』という言葉いただいたことで、私の考え方が解放され、異国の地での創作活動により深く没頭することができました。自由な発想の中で生まれた作品は、ベルリンという場所が持つ特有の空気感や、これまでの旅で得たさまざまな感覚と密接に結びついています。この旅全体が、私にとって新たな芸術的探求の扉を開き、今後の作品に大きなインスピレーションをもたらしてくれたと感じています。この貴重な経験に感謝するとともに、これからの創作活動にしっかりと生かしていきたいと思えます。」

「今回のワークショップはとても楽しかったんです。普通に公開しない場所を見学して、キュレーターさんと一緒に展覧会を見ることはとても珍しくて、全く新しい体験で、色々なことを勉強できて、ほんとにありがたいです。最後の制作と発表では、皆さんそれぞれの作品からインスピレーションを得られました。塩田先生はとても優しい先生で、チャンスがあれば、今後の講義なども参加したいです。」

*「I feel very lucky and happy to be able to participate in this workshop. The itinerary was arranged reasonably and fully, and there were many unexpected surprises. It was an art and cultural journey that enriched the spirit. In addition, Teacher Chiharu Shiota was unexpectedly gentle and lovely. She accompanied us almost throughout the journey and helped us all the time. In addition to giving us a good experience, she took us to the art galleries and museums she knew. For example, the Tchoban Foundation and the Sammlung Hoffman, which may not be visited normally. Although I was exhausted because of the enrichment in just a dozen days, it was a journey that I will still be moved by in my memories in the future.」*

*「As impressive as the program being a thoughtful curation combining visits to historical/contemporary sites, art museums and collections, it is much more beyond: a period of full indulgence in culture and deep reflections, a duration of open-boundaries that celebrates and embraces experiments, chance encounters, and the very presence of one another. Lead by Shiota Chiharu, a wonderful personage in her very being, tender but powerful, nurturing and inspirational. It was a huge honor and blessing to have her with us, not simply as a revered artist precedent figure but also a mother-goose who tends to every single one of the participants in the program, physically, intellectually or emotionally.*

最高に濃密で強烈であり、精神とも潤っていた 10 日間でした。」

「はじめてのベルリンで緊張しましたが、文化や街にとっても刺激を受けました。日本の当たり前は世界の当たり前ではないことを頭ではわかっていましたが、身をもって経験すると違った見え方がして、マナーやこだわりの違いや、戦争や LGBTQ など、実はとても身近なことであると思知らされました。また塩田先生の優しさと強かさを間近で見ることができ本当に良かったです。制作のヒントとして、夏休みの思い出として良い経験になりました。」



「たくさんのゲストを呼んでいただき、色々な話を聞かせてくれてとても勉強になりました。塩田さんのアトリエで作業する時間はとても有意義で、講評会前日は大変だったけど楽しかったです。

学生のみなどとディスカッションする時間も楽しくて実りある時間となりました。このワークショップを通して、どんな事でも話してみることが良いディスカッションを作るのだと知ることが出来ました。”塩田千春さんのワークショップに参加して、深い感動と新たな創作の視点を得ることができました。ワークショップを通じて、素材との対話や空間との関係性をより深く理解できて、自分自身の内面を改めて見つめ直す貴重な機会となり、今までとは異なる視点から作品を作り上げる喜びを感じる事がたくさんあります。この経験をもとに、より深く、そして感覚的に豊かな作品を創り続けていきたいと思います。」

「今回は「当事者性」をテーマに、10日間にわたり芸術と政治について考えた。ベルリン滞在中に、パレスチナとイスラエルのデモが衝突している場面に遭遇し、実際にデモ参加者にインタビューを行った。また、EWSの参加者にも美術作品における「当事者性」や政治的な作品に対する意見を伺い、1人1人と時間をかけて対話を重ねた。そのプロセス自体を最終的に作品に昇華させた。さまざまな人々と1つのテーマについて議論し考えることで、自分の中で政治的な作品に対する抵抗感が少し和らいだように感じる。

また、塩田さんとの面談では、自分の手法が定まっていないことに悩んでいると相談したが、『宇宙もたくさんのカオスから1つの秩序が生まれているのだから大丈夫だ』というように励まされ、元気が出た。」